

The Story behind Holding the Autumn Meeting in Kanazawa

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00030449

金沢で開催された秋季大会の裏話

藤下豪司* (金沢大学国際基幹教育院 fujishit@staff.kanazawa-u.ac.jp)

1. はじめに

2016年秋季大会(物性)を、9月13日から16日の日程で金沢大学角間キャンパスを会場として開催した。統括に当たった実行委員長として、大会全般の様々な問題やエピソードなど、会員に興味のありそうな事柄について、総括的なエッセイを依頼された。発表者や聴講者として参加しているだけでは知り得ない苦労もあり、知らないが故に過大に受け止めてしまうこともあると思われるので、今後役に立てられればと思い依頼を引き受けることにした。

2. 開催の受諾まで：96年年次大会の苦い記憶

筆者が物理学会北陸支部長をしていた2012年12月に、本部から、「金沢大学で、2015年の、または17年以降の、年次大会の開催を検討していただきたい。必要な教室の大きさと数は以下の通りです」という依頼を受けた。96年年次大会の実行委員を経験した筆者ら年配の教員には、後述するような交通問題についての苦い記憶があったので、困ったことになったとは思ったが、ともかく角間キャンパスで使用可能な全教室を調べた。その結果、年次大会の開催は到底不可能との結論に至り、本部にも認めていただいた。これで筆者の定年までに大会が開催されることはなくなった、はずだった。しかし2013年9月に、改めて、「2016年以降に、物性関係秋季大会の金沢大学での開催を検討していただきたい。秋季大会なら開催できるはずですよ」との依頼を受けた。

96年年次大会では角間キャンパスが物性関係の会場になり、角間キャンパスからバスを乗り継いで50分程の距離にあった小立野キャンパスが、素核宇宙関係の会場となった。参加者は4,200人程度と記憶しているので、角間キャンパスへの参加者は3,400人程度と推測される。

この大会から運営方法が変わったことがあった。臨時バス運行の交渉が、実行委員会から旅行業者に変更になったのである。そのため、実行委員会では臨時バスの運行計画を把握していなかった。この大会は、角間キャンパス移転後、初めての大きな大会だったため、旅行業者・バス会社ともに臨時バスの運行に慣れていなかったこともあった。その結果、寒空の中、バス停に1時間以上並ぶという事態になり、大会本部に怒鳴り込んでくる参加者も少なくなかった。実行委員会では、慌ててタクシー会社に角間キャンパスへの集中配車を要請するとともに、翌日からの臨時バスの増便を依頼した。当日の混乱は19時頃まで続いた。

現在では物性関係の参加者は4,000人程度になっており、さらなる混乱が予想された。他の理由も挙げて開催を固辞し続けたが、結局、最も早い時期の開催を受け入れることになった。受け入れ決定後、知り合いに「金沢大学で秋季大会を開催することになった」と話すと、「20年前はひどかった、今度は大丈夫なんだろうな」と釘をさされる始末であった。

3. 会場関係費用など：不測の事態

本部から、期待できる補助金の額、臨時バスの運行・警備費を含む会場使用料の概算額を調べるように依頼された。2013年9月に角間キャンパスで、2,700人が参加する、金属学会・鉄鋼協会合同大会が開催されたので、交通担当実行委員に実情を聞きに行った。希有なことのようなのであるが、臨時バスには、乗車運賃とは別に、一便ごとに出動料が必要とのことであった。実際の臨時バス運行表もいただいた。4,000人参加の場合、予定されている消費増税を考慮しても、出動料は最大300万円であり、石川県と金沢市から、補助金とは別に、合計で、この半額が補助されることがわかった。(2016年には出動料は減額され、消費増税は先送りされた。)担当した旅行業者とは接触しなかったが、直近での担当経験のある業者の存在は心強いことである、はずだった。

角間キャンパスの施設使用料については、講演プログラムが決まらなると使用する部屋が決められないので、使用しない部屋の料金も支払うことになる可能性があった。その場合でも、県と市の合計の補助金480万円には至らないので、「臨時バスの運行・警備費を含む会場使用料」についての自己負担額が100万円を超えることはないとの見通しが立ち、開催が正式に決定されることになった。

旅行業者選定の入札は、本部が大手3~4社に案内を出し、1次評価は本部が行うとのことであったが、実際に入札案内を送る直前に事件が起こった。前記業者の他県支店員が業務に関する事で逮捕されたのである。結局、新たな業者にも案内を出し、応札した業者と面接して大丈夫と確信できる業者に委託した。

旅行業者を介したホテル予約には団体割増し料金が上乘せされるようで、webサイトで容易にホテルの予約ができるようになった現在では、多くの部屋を確保するのはリスクが大きいというのが、2014年初め頃の業者の見解であった。その後、北陸新幹線延伸への期待による金沢ホテルバブルが生じ、2014年末には、すでに、1部屋平均1,000円

以上値上がりしたとのことである。さらには、全国的にも、慢性的にホテルが不足する事態になったようである。

臨時バスの増発は要求し続けたが、回答は常に渋かった。開催1月前のバス会社との直接交渉でも、「運転士の確保が困難」との回答であり、少なからぬ混乱も覚悟したが、杞憂に終わったようである。直前でないと決まらないことをバス会社も確約できないのではあろうが。

4. 運営について

実行委員会のやるべき仕事の内容とスケジュールについては、「大会準備・開催マニュアル」が整備されており、準備と運営について戸惑うことはなかった。本部からの催促で慌ててマニュアルを読んで準備しても何とか間に合わせられた。それを見込んで催促しているのではあろうが。

昼食・弁当販売実績数一覧と会場出席者数（日毎の参加者数一覧）は食堂の営業に特に役立った。生協には学期期間中とほぼ同様の営業をさせていただいたおかげで、食堂に並ぶ行列は、予想に反して、学期期間中に比べて遙かに短かった。

マニュアルにはまだ記載されていなかったが、eduroamを使用した、第70回年次大会（早稲田大）インターネット系の報告書も役に立った。参加者数と臨時ID申請者数から、必要な臨時ID数を1,000と予想し、念のため1,500用意したが、申請数は予想通りであった。

講演会場については、当初、自然科学本館と総合教育棟での開催が検討された。しかし、「大きな教室が良い」とのことで、プログラム編成で、より離れた、人社系講義棟を使用することになったとのことである。このため、プログラムを組むのは例年に比べて容易だったようである。しかし、両会場の玄関は歩いて10分の距離なので、講演会場によっては移動に20分近くかかる場合もある。両会場の往復を繰り返した参加者は、歩数が1日2万歩を超えたとのことであるが、日頃の運動不足を解消できたと思っていたideきたい。

予想以上に困ったのが、プロジェクターとPCの不適合である。準備日に全てのプロジェクターについて、WindowsとMacで動作確認を行った。しかし当日には頻繁に不調が起り、用意した予備機が出払ってしまうこともあった。不調は、ケーブルなどの接続不良や操作ミスもあったが、原因不明なことも多かった。特定のOSのバージョンで起こるとも限らないようである。

5. 謎の階数表示

ほとんどの参加者は気にもとめなかったことであろうが、総合受付の2階上の、吹き抜け手すりに、「ここは1階です」という不思議な横断幕がある。つまり玄関から入った階はG2Fである（このことはプログラム前付に記載して

おいた）。5層ある自然科学本館は、3層目で研究棟最下層の1階と接続しているのので、3層目を1階としているのである。安全上、託児室は会場配置図には示さず、方向案内も出さず、総合受付で事前利用申込者のみに場所を教えているのであるが、初めのうちは迷う利用者が続出してしまった。

6. 市民科学講演会

秋季大会開催に合わせて市民科学講演会が開催されていることは承知していたが、実行委員会の役割は会場の確保だけで、企画運営は本部の委員会が行うと思っていた。しかし、50万円の予算で全てを実行委員会が行うとのことであった。高校生や一般市民向けなので土日祝日開催となるが、交通問題があるので、市内中心部の会場で行うことにした。2014年ノーベル物理学賞が「青色発光ダイオードの発明」に贈られたので、天野浩名大教授に講演をまず依頼してみることにしたが、2015年年次大会を始め、多くの学会・大学で講演が行われているようなので、状況が落ち着くまで行動しないでした。

2015年7月頃になって、1年前には会場は大分予約されてしまっていることを聞き、慌ててキャンセル可能な会場をいくつも予約した。講演申込は、名古屋大学webサイトの専用ページでのみ受け付けていて、すでに2016年9月以降の講演のみを受け付けていた。慌てて申し込んだが、第一希望日の講演を了承していただいた。

ポスターとチラシを作成して配布することにしたが、Wikimedia Commons ライセンスの東京スカイツリー画像を使用しないようにとの指摘をいただいた。そこで東京スカイツリーライセンス事務局とパナソニックに画像使用許可を求めてみた。講師が天野教授であるとのことで、提供された画像をそのまま、指定されたクレジットを入れることで、特例として使用を許可していただいた。

作成したA2判ポスターとA4判チラシを、北陸3県の高校、石川県の大学・図書館・公民館などに合計250部郵送した。当日の参加者は、予想に反して、学生は少なく一般市民が多かった。講演は、ノーベル賞発表時に本人に連絡が取れなくて大騒ぎになった裏話から、現在進めている途上国向けの安価な飲料水殺菌システムの開発まで、一般市民でなくても興味深い内容であった。

7. おわりに

大会自体は、始まればあつという間に終了したという印象である。病人・けが人が出ることもなく、台風に襲われることもなかったのので、実行委員会はひと安心であった。30人の学生アルバイトが、1人の遅刻も欠勤もなく、そつなく業務を遂行したことには感心した。彼らの力により、大会が円滑に運営できたことも事実である。

編集委員会の依頼とは異なり、金沢大学に特有の事柄についての記述が大半になってしまった。これは、それ以外の準備や運営については、特段のことがなかったということでご容赦願いたい。もちろん書けないことも少なからずあるのではあるが。

(2016年12月2日原稿受付)

*実行委員会委員長